

第4学年2組 社会科 学習構想案

菊池市立旭志小学校 教諭 高島 雅秀

1 単元構想

単元名	健康なくらしとまちづくり～水はどこから～（教育出版 P50～69）		
単元の目標	水を供給する仕組みについて、人々の生活との関連を踏まえて理解するとともに、水を安定的に供給するための仕組みや人々の取組について、それらが果たす役割を考え、水をどのように使っていけばよいかについて選択・判断し、水の供給や使い方について主体的に問題を解決しようとする態度を養う。		
単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	①水道水が送られてくる仕組みを正しく理解している。 ②水道水を安定して供給するために、様々な地域が協力し、計画的な取組がなされていることや、供給に関わる人々の工夫や努力について理解している。	①水の用途やその使用量を調べて思ったことや考えたことをもとに、学習問題について考え、適切に表現している。 ②水の供給に関わる人々の工夫や努力、苦労、想いについて理解したことから、節水が必要である理由や、節水のために自分にできることについて考え、適切に表現している。	①水の用途やその使用量を基に、自分の水使用について振り返り、考えようとしている。 ②自分たちの使う水道水が、清潔に、安全に、たくさん届くための仕組みや経路に関心を持ち、意欲的に調べようとしている。 ③節水など、よりよい水の使い方について、自分事として捉え、積極的に取り組もうとしている。
単元終了時の児童の姿（単元のゴールの姿・期待される姿）			
自分たちが使用している安全で清潔な水を安定的に確保し、供給していくために従事している人々の思いや努力について理解し、水を大切にしたり未来のために自分たちにできることを考えたりし、実践していこうとする児童。			
単元を通した学習課題（単元の中心的な学習課題）		本単元で働かせる見方・考え方	
自分たちが毎日使っている水についてくわしく調べ、「熊本の水新聞」を作ろう。		水はどのようにして供給されるのかに着目して、供給に関わる施設の工夫や人々の思いや努力について調べたり、地域や自分たちの生活と関連づけて考えたりすること。	
指導計画と評価計画（12時間扱い）			
過程	時間	学習活動	評価の観点等 ★は記録に残す評価の場面で「具体的評価規準」
課題発見	2	①普段の生活でどのくらいの水が使用されているのかについて調べ、実際の生活での水の使用量について関心をもつ。 ②自分たちが普段使っている水はどこからや	【思一①】（発言・ノート） 【主一①】（発言、ノート） 【思一②】（発言、ノート）

		ってくるのか、学習計画を立てる。	
課題追及	7	③水はどこから取り入れているのかや熊本の地下水について調べる。 (副読本:「わたしたちの熊本」)	【知一①】(発言、ノート)
		④浄水場の働きや、そこで働く人々の思いや努力について調べる。	【知一①】(発言、ノート) 【主一②】(発言、ノート)
		⑤水道管を守る人々の働きや努力、思いについて調べる。	【知一①】(発言、ノート)
		⑥ダム役割について調べる。	【知一①】(発言、ノート)
		⑦水源や地下水を守る取組や、節水のためにできることについて調べる。 (副読本:「わたしたちの熊本」)	【知一①】(発言、ノート) 【主一③】(発言、ノート)
		⑧GTを招き、旭志地区の水源や生活用水について話を聞き、学びを深める。	【思一②】(ワークシート)
		⑨下水処理施設について調べる。	【知一①】(発言、ノート)
新たな課題	3	⑩これからの未来に大切な水資源を残していくために、自分にできることは何かを考え、学習したこととともに新聞にまとめる。	【知一②】(新聞) 【思一②】(新聞) 【主一③】(発言、新聞)

2 単元における系統及び児童の実態

学習指導要領における該当箇所(内容、指導事項等)	
<p>本単元は、小学校学習指導要領第4学年の内容(2)ア(ア)「飲料水、電気、ガスを供給する事業は、安全で安定的に供給できるように進められていることや、地域の人々の健康な生活の維持と向上に役立っていることを理解すること。」、イ(ア)「供給の仕組みや経路、県内外の人々の協力などに着目して、飲料水、電気、ガスの供給のための事業の様子を捉え、それらの事業が果たす役割を考え、表現すること。」を受けて設定している。</p>	
教材・題材の価値	
<p>本教材では、生活に必要な水道水を確保するために、水道事業が広い地域の協力と人々の努力によって計画的に行われ、使った水は適切に処理されていることにより、人々は健康で快適に生活することができるということに気付かせたり、地域の水道事業に携わる人々の仕事を学習したりすることで、地域や自分自身の生活に関わる水について、より関心を高めさせることができる。</p>	

本単元における系統
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 60%;"> 3年 「くらしを守る」 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 60%;"> 4年 「健康なくらしとまちづくり ～水はどこから～」 </div>
児童の実態（単元の目標につながる学びの実態）
<p>単元の学習については、普段自分たちが使用している水がそこから、どのように供給されているかという流れや仕組みについて理解している児童は少ない。加えて、水道事業に従事している人々の思いや努力についても理解している児童は多いとは言えない。</p> <p>そのため「清潔で安全な水を毎日使い続けることができるのはどうしてか」ということに疑問をもち、学習課題を設定し、主体的に追究していくことができるようにする。清潔で安全な水を安定的に確保し、供給するために水道事業に従事している人々の思いや努力などから、実感を伴った理解ができるようにする。また、熊本の豊富な水資源をこれからの未来でも持続的に使用することができるように、節水や地下水の保全の取組を自分事と捉え、実践に繋げていくことができるように取り組んでいく。</p>

3 指導にあたっての留意点

- 児童が普段使う水の量について関心をもつことができるように、学校での1ヶ月間の水の使用量や水道料金、自分の家庭でどんな時に水を使っているかなど身近なところから課題を設定する。
- 単元のゴールを「熊本の水新聞を作ろう」と設定することで、児童が普段使用する水についての理解を深め、学んだことをもとにこれからの自分にできることは何か考え、実践していく態度を養う。
- 視覚的に理解することができるように、一人一台のタブレット端末に画像や資料を配付したり、電子黒板で拡大した資料を指し示しながら説明したり、必要に応じて動画視聴をするなど ICT 機器を効果的に活用する。
- 熊本県独自の地下水を守る取組に関する資料を用意し、グループごとに調べさせることで、熊本に住む一人として地下水を守っていく大切さに気付かせる。
- 菊池市役所の環境課から GT を招いて話をしていただくことで、旭志地区の水の源となる地下水や普段の生活で使用している水を大切にしていける一人としての意識をもたせ、学びを深める。
- 自分たちにできることは何かを出し合い、その中から自分にできることを選択することで、これからの生活に繋げることができるようにする。
- 新聞にまとめる際には、必ず「この単元での学び」と「自分にできる節水の取組」を記述させ、学びを確かなものとし、節水に向けて取り組んでいく動機づけとなるようにする。

【ESD の視点から課題発見と自己実現の場となる SDGs の取組】

単元を終えて次の学習を促す

- ・家庭でできる節水の取組について家族で話し、実践する。
- ・掃除の際にはバケツを使って雑巾を洗ったり、歯磨きではコップを使ったりするなど学校でもできる節水の取組を実践する。

4 ESD との関連

(1) 本単元で働かせる ESD の視点 (見方・考え方)

- ・相互性：熊本の地下水は、日常生活で水を使用するあらゆる場面と密接に関わっている。
- ・有限性：全国でも有数の地下水が、このまま使い続けていくだけではいつかなくなってしまう。
- ・連携性：一人一人の小さな取り組みが、みんなでやれば大きな成果につながっていく。

(2) 本学習を通して育てたい ESD の資質・能力

- ・未来像を予測して計画を立てる力

このまま地下水が減少し続けたら、どんな問題が起こるか考え、自分たちにもできる取り組みを考え、行動に移す。

- ・他者と協力する力

大切に安全な水資源を守っていく取組を、多くの人を巻き込みながら行動することができる。

- ・進んで参加する態度

自分がよいと思ったことや自分にもできると思ったことを、積極的に行動に移すことができる。

(3) 本学習を通して育てたい ESD の価値観

- ・世代間の公正

熊本の豊かな水資源を、次の世代にも残し続け、水が豊かな熊本を持続させていくことが大切。

(4) 達成される SDGs

6 水と衛生

11 まちづくり